

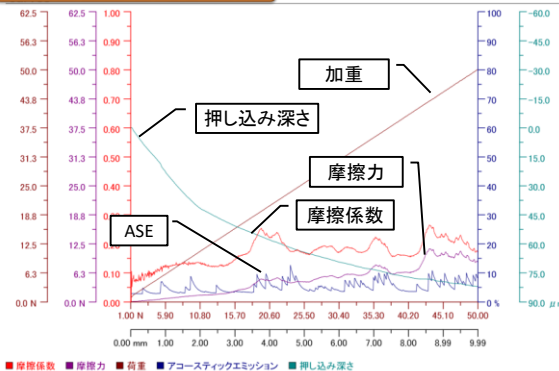
ガラス施工における摩擦係数試

スクラッチ条件	
直線スクラッチ タイプ: 連続荷重 最小荷重 (N): 1 最大荷重 (N): 50 荷重スピード (N/min): 100.01	+ ハードウェアの設定 Fn コンタクト: 1 N Fn スピード: 5 N/s Fn 除去スピード: 10 N/s アプローチスピード: 2 %/s Dzセンサーを標準レンジで使用する 測定する前にDzの調整をする
AE感度: 9 スクラッチスピード (mm/min): 20.41 スクラッチ距離 (mm): 10 位置X (mm): 9.981 + 試験機: RST S/N: 01-04013	日付: 2017/06/12 時間: 11:12:59
圧子	
型式: Rockwell シリアル番号: N2-4760	材質: 鋼 球 半径 (μm): 200

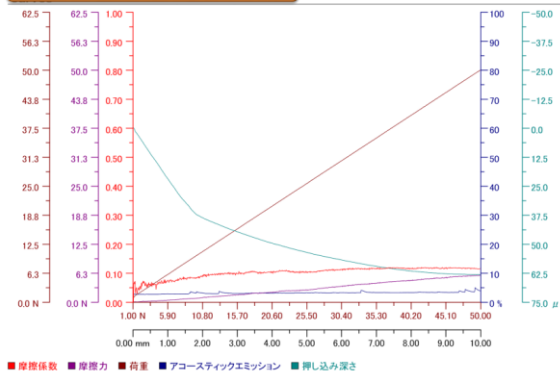
ガラス面への施工は、通常の掃除を対象とする場合、摩擦係数の低い、フォーミュラCC適切となり、濃度は20%が適切と思われます。ガラス本来の強化を行うには、フォーミュラGCが適切となり濃度は、1回施工の場合は、100%、日常的に使用する場合は、10%~20%程度が適切と思われます。

- フォーミュラCC10%溶液では、摩擦係数のグラフの振れが生じたため、20%溶液で同様の試験を行った結果改善された。
- フォーミュラCC100%溶液では、摩擦係数は増加した。
- フォーミュラGC100%は、押し込みのグラフ曲線の変化から、ガラス面の強度を増加させる効果が認められた。

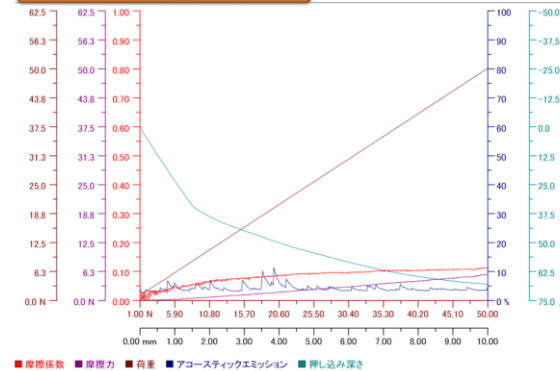
ガラス面 コートなし



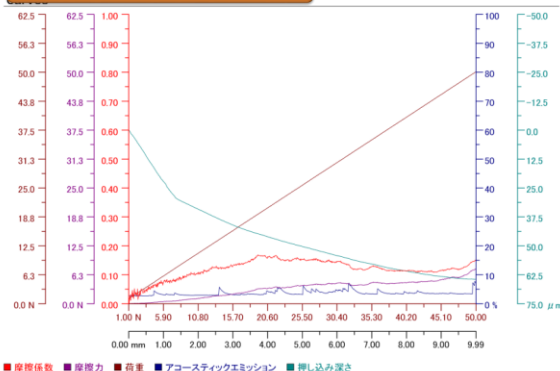
ガラス面 フォーミュラCC10%



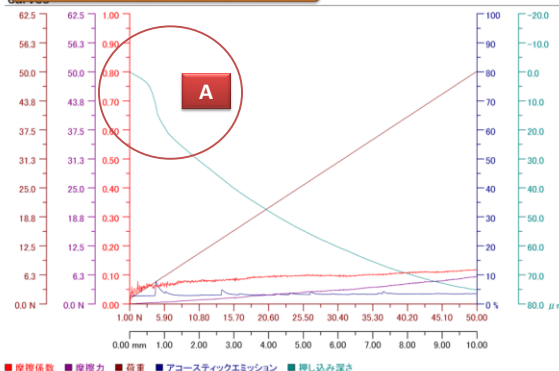
ガラス面 フォーミュラCC 20%



ガラス面 フォーミュラCC100%



ガラス面 フォーミュラGC100%



摩擦係数
フォーミュラCC10%で、摩擦係数を30%低減しました。濃度が高くなると摩擦係数は増加しました。

耐圧力性
フォーミュラCCはガラスの耐圧性を向上させることはできませんでした。
フォーミュラGC100%を施工した場合は、OAの示すとおり耐圧力性を向上させました。押し込みグラフも全体的に緩やかなカーブを描いています。